



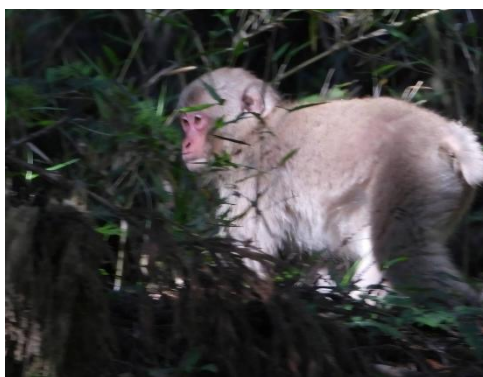
エフィラ愛川ふれあいの村 今月の風景

2026年5月 自然のたより

5月5日～5月20日は二十四節気では立夏と呼ばれています。夏の始まりの時期で、一年で最も過ごしやすい季節だそうです。しかし、今年はまだ肌寒いと思っていたら、真夏日を超えるような暑い日が続き、その後また気温が下がるなど、過ごしやすいとは言い難い季節となりました。ふれあいの村周辺では、この時期に見ることができていた生き物が見られなかったり、ダムの水が少なかったりと、気候変動の影響を感じます。本格的な夏が来る前に、梅雨が恵みの雨を降らせてくれることを願っております。(川原)



シジュウカラ巣立ち



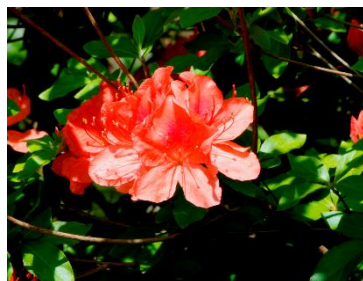
コザル筈大好き



ヒキガエル旅立ち



エゴノキ咲いた



ヤマツツジ



ヤマブキソウ



ガマズミとハナムグリ



スギカミキリ



クロスジギンヤンマ



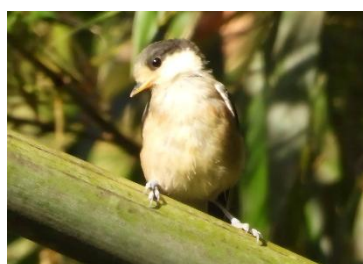
ウンモンズズメ



アオオサムシ



ムクドリ子育て中



ヤマガラ巣立ち



キセキレイ囀る



カワラヒワ囀る

トピックス★2025~26 冬の渡り鳥★

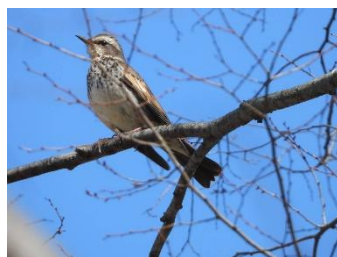
5月2日、ツグミが飛び立ったのを最後に、冬鳥たちはそれぞれの繁殖地へと帰っていきました。ある鳥はシベリア方面へ、ある鳥は北海道や東北地方へそしてある鳥は高山へと、故郷は様々です。現在は夏鳥がやって来たり、もともと村にいた鳥たちが巣作りや、縄張り宣言で囀ったりとにぎやかです。

さて今季の冬鳥たちの様子はどうだったでしょうか。10月28日に冬鳥1号のジョウビタキを観察し、アオジは11月15日ころで、だいたい例年通りです。ツグミは11月3日で6年間の観察の中で最も早い来村でした。数的にもほぼ例年通りです。今季特筆すべきはアトリ科のシメ、イカルそしてウソが多かったことです。今季、イカルはシメと混群を作り採餌している姿が観察できました。シメは普段は1シーズン数回の観察でしたが、今年はほぼ毎回観察することができ、ウソは全く見られない年もあるのに今季は何度も出会えました。しかし、かつては毎日のように見られたアトリやマヒワは今季も一度も観察出来ず、3年間出会えておりません。また、毎年やって来るカシラダカが付近の工事の影響で姿が見えず。来季は来てくれることを願っています。幸せの青い鳥ルリビタキは少ないながらも観察できたのは良い知らせです。

野鳥は環境の変化（悪化）に敏感です。毎年渡って来る鳥が来なくなる、いつもいた鳥がいなくなる。そんな野鳥が安心して暮らせる環境は人にとっても安心して暮らせる環境だと思えます。これからも、村が野鳥たちにとって安心して暮らせる場所であってほしいと思えます。（高梨）



ジョウビタキ



ツグミ

生き物 ★オタマジャクシ★

こどもたちの人気者、オタマジャクシ。名前の由来となっているお玉杓子は、昔使われていた調理用具で、ヘラの先端がおたま状になっているものです。形がそっくりなのですが、今はもう、見ることはほとんどないと思います。さてそんなオタマジャクシたちも、5月に入って上陸の時期です。ほとんどヒキガエルのオタマジャクシなのですが、最初は爪先くらいのサイズのヒキガエルになります。村にあるすり鉢状の防火水槽は、彼らにとって登りやすい緩やかな斜面。水際に殺到し、我先に地上を目指します。防火水槽の水辺を、ずっとこうして頼りにして生きてきたのでしょうか。彼らのためにも、皆さん十分に火の取り扱いにご注意ください。（大谷）



旬 ★ふき★

春の訪れを告げるふき。日本では昔から親しまれてきた植物です。日本原産の野菜のひとつとして知られ、古くは平安時代の文献にも登場するとされています。

早春になると地面から顔を出す「ふきのとう」は実は、ふきの花のつぼみの部分です。ふきのとうが成長すると花茎が伸び、その後に大きな葉と長い茎をもつ「ふき」へと育っていきます。

ふきはアクが強いことでも有名で、調理の際には下処理が欠かせません。一般的には板すりし、ゆでてから皮をむきます。ゆでる前に皮をむいてしまうとアクによって手が黒くなってしまいます。これはふきに含まれる成分によるもので、水だけでは落ちにくく、酢や重曹を使う必要があります。

少し手間はかかりますが、そのぶん季節を感じられる味わいは別格です。みなさんも春の恵みを食卓で楽しんではいかがでしょうか。（後藤）



来月の見どころ
梅雨時のアワブキ
六月は環境月間です。地球を取り巻く環境が、年々厳しくなってきたままです。世界中で人間の開発行為による自然の破壊が進んでいます。生物多様性の損失を食い止める活動が新たな世界目標としてSDGの15という形で掲げられて来ました。
ふれあいの村ではアオバセリやスミナガシという珍しい蝶がよく飛んでいました。最近少なくなってきました。その訳は幼虫の食草となるアワブキの木が減少してしまったことによりです。アワブキは、「泡吹」で燃すと幹から泡が出るのが名の由来です。上の写真のようにその時期になると沢山の花を咲かせます。とても珍しい樹木なので増やす工夫をしたいと思っています。下の写真のアオバセリは、セリ科の美しいアオバセリは、アワブキの葉を食べて育ちます。小さな取り組みですが、それが生態系の健全な回復に少しでもつながっていくことを願っています。（吉田）